

大谷教師塾 教員養成ナビゲータ

大谷大学
教職支援センター

第114号

2017. 1. 25

人として、教師として成長するための「かきくけこ」

大谷大学 教職支援センター副所長 教育・心理学科教授 市川郁子

「教師になる」という夢を実現するために、みなさんはそれぞれに目標をもってこの1年間取り組んできました。自分自身の一年間を思い返してみてください。自分の「がんばり」は「がんばり」としてしっかり受け止め、その成長を喜んでください。そして、頑張れなかったこと、力を出しきれなかったことについては、なぜ頑張れなかったのか、なぜ力を出しきれなかったのか、その理由を考えてみてください。自分自身の心がその答えを一番よく知っています。そして、その理由の中に、みなさんが「人として成長する」ために、「教師になる」ために生かしていかなければならないヒントがたくさんあると思います。自分の夢を実現するために大谷大学で教師を目指して頑張っているはずです。人として成長し、子どもとしっかり向き合える教師になるために大切なことを「かきくけこ」に当てはめて伝えます。

「か」 関わることです。 人としっかり関わってください。私たちは人と関わりあって生きています。大学の仲間、先生、ボランティアでお世話になっている学校の教職員の方々、地域の方々、子どもたちと関わる中で、相手の立場を考える、相手の思いをしっかり受け止め一緒に考えようとする、相手に届き納得が得られる話し方を身に付ける等々適切なコミュニケーションがとれるようになってください。異なる考え方や感じ方、多様な価値観に触れることで自己の感性を高めることができます。時には疲れることがあるかもしれませんが、人との関わりにより自分を磨き、助け合いながら成長してください。

「き」 気付く力をもつことです。 その場の状況、周囲の様子や変化に気付く、人の親切、思いやり、やさしさに気付いてほしいと思います。そして、何よりも子どもたちの思いを敏感に受け止められるアンテナを持ち、よさやがんばりに気付ける力を身に付けてください。また、自分に対する厳しさを持ち、自己の不足に気付ける人であってください。素直に、謙虚に不足を自覚することが、自分を伸ばすことにつながります。

「く」 繰り返し頑張ることです。

「継続は力なり」と言います。自分の夢の実現のために、あきらめずに、今頑張っていることを繰り返し続けてください。教育実習や学校ボランティアにおいてもできないことはいっぱいあります。どうすればよいのか分からず悩



み、苦しむこと、辛いこともたくさんあります。簡単にできることや楽しいことばかりではないはず。 「がんばり」の先には必ず明るい未来があることを信じ、少々の困難に出合っても折れない心を持って取り組むことです。繰り返し努力したことはあなたを裏切りません。

「け」 健康を保持することです。 心も体も健康な状態で人に対してきちんと向き合ってください。健康でなければ仕事への意欲は生まれません。笑顔を忘れず、毎日の生活を楽しみ、活動と休息のバランスや生活リズムを整えて健康を保ってください。子どもたちは先生の笑顔が大好きです。

「こ」 個性を大事にすることです。 金子みすずさんの「わたしと小鳥と鈴と」の詩で歌っているように、みんなが同じでなく、みんなそれぞれによいところ、個性があるからすばらしいのだと認め合うことが大切です。これだけは自信があるという自分らしさを見つけ、自分を大切にしてほしいと思います。自分に誇りを持ち、自分が好き、と言える子どもたちを育てていける教師を目指してください。

教職支援センターはみなさんの夢の実現のために全力で支援を続けます。

《こんな先生になります》

() 採用自治体

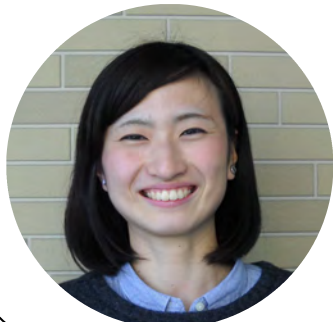
《子の成長の土台作りのできる先生に》 教育・心理学科 井上 桜 (京都市・小学校)



「ありがとう」と素直に言える子どもを増やしたいと考えています。私は総合育成支援員として、子どもと共に悩み、悔しがり、喜びながら成長してきました。そして、多くの感動をもらいました。子どもは、それぞれに頑張りますが、そのきっかけや土台をつくるのは教師の役目です。教師は、子どもに接しながら思いや願いをくみ取ります。そして、みんなが、キラキラと目を輝かして活動できる学級を目指します。

私は、教員として、謙虚な心を持って子どもとのつながりを大切にします。今までに出会った人、これから出会う人の姿を「観て・聴いて・感じて」学んでいきます。子どもたちには、少しでも時間をつくり一人ひとりに向き合います。

《「わかる」楽しさを伝える先生に》 教育・心理学科 小林 さくら (大阪府・小学校)



「わからないから諦めてしまう」勉強が苦手だった小学生の頃の私の姿です。そんな私だったからこそ、「わかった時の楽しさ」を子どもたちに伝えたい。困難なことにも努力してできるようになれば、達成感を感じます。「次も挑戦してみよう」という気持ちになります。私は、そんな子どもたちのチャレンジする心を支えたいのです。困っているときには、寄り添います。

私は、子どもたちが伸び伸びと自分の力を発揮できるような環境作りをしていきます。そのうえで、勉強が「わかって楽しい」「できて、嬉しい」と思ってもらえる先生になります。

《「今」を大切にできる先生に》 文学科 田中 千裕 (豊能地区・中学校 - 国語)



「今」には、二つの意味を込めています。一つは、目の前のやるべき事柄に向けて行動してみることです。初めてのことで、苦手なことから逃げず、考えているだけでなく行動することは、大きな一歩を踏み出すことにつながります。もう一つは、子どもたちと過ごす一瞬一瞬を大切にすることです。私は、子どもの心の変化や見えない思いの存在を教育実習で学びました。中学生という多感な時期だからこそ、子どもたちと過ごす時間を心から大切にしたいのです。

今を大切にすることは、一人ひとりを大切に思うことだと考えます。困難なことにも前を向いて挑戦し、子どもたちと正面から思いやりを持って向き合います。

《挑戦し続ける先生に》

教育・心理学科 林 大樹 (滋賀県・小学校)



私は、失敗を恐れず前向きに挑戦していく学級集団づくりを目指します。子どもたちにとって、何かに挑戦する機会はたくさんあります。「自分には無理」とあきらめるのではなく、「無理かもしれないけれど、やってみよう」と前へ進めるように子どもたちへの支援をしていきたいと考えています。

「何かに挑戦することは、素晴らしいことだ」と学級全員で共通理解することも大切です。そのためには、教師自身が挑戦する姿を見せたいと考えています。それを手本として、子どもたちが安心して行動できるようになると思います。

《子どもの力を信じ・支える先生に》

教育・心理学科 奥田 萌 (大阪府・小学校)



教育実習や学校ボランティアで、子どもが成長する瞬間を目の当たりにすることがありました。初めて「できる」ようになった時、その大小にかかわらず子どもの目はキラキラと輝き、笑顔に満ち溢れていました。自分の成長を実感しているようでした。

私は、教師として子どもの持つ力を信じていきたいと思っています。壁にぶつかることがあっても、必要な手立てを示しながら子ども自ら乗り越えてほしいと願っています。そして、「できた」を自信につなげてほしいと思います。

教師という責任の重さを考えると、不安も感じます。でも、子どもの「キラキラ顔」を思い、学び続けることを忘れず、私は子どもと共に成長します。

《子どもと向き合える保育者に》

教育・心理学科 金田 紗季 (滋賀県・幼稚園)



子どもの思いを丁寧に受け止め、子どもと向き合える保育士を目指します。個々の子どもたちの個性や発達過程をふまえた保育を心がけます。

教育実習や幼稚園でのボランティアで、子どもたちと共に活動しながら小さな発見や気づきを共有しました。その時の「感動」「驚き」「おもしろさ」は、忘れられません。小さな感動や驚きを大切に、子どもたちの感性を豊かにしていきたいと思っています。

四月から始まる保育の現場で、子どもたちが伸び伸びと園生活を送れる様に努力します。そして、子どもたちの心に寄り添いながら、笑顔で関わりを深めていける先生になります。

《「楽しい」授業のできる先生に》

教育・心理学科 増本 奈緒 (大阪府・小学校)



「小学校の先生になりたい」と思い始めたのは、私が小学校の頃でした。「学校が、好きだから」と単純な気持ちでした。大学生になり、学校ボランティアや教育実習で子どもたちと関わっていくうちに、「先生になりたい」思いは、どんどん強くなっていきました。

この四月から憧れの先生になりますが、今は希望と不安でいっぱいです。かつて私がそうだったように、子どもたちには学校が好きになってほしいと願っています。そのために、私は、「楽しい」授業をつくります。子どもたちに辛いこと・苦しいことがあっても、私は一緒に悩んだり泣いたりできる先生になります。子どもと共に感じながら、共に成長して「楽しい」学級をつくっていかうと考えています。

《子どもの夢を全力で応援する先生に》

教育・心理学科 梅本 晴香 (滋賀県・小学校)

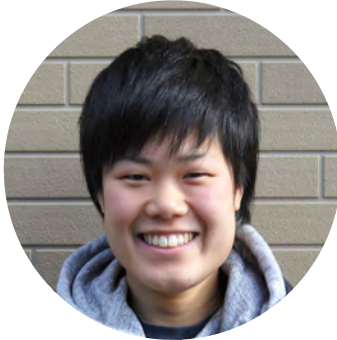


私は、幼いころから教師になることを目指していました。そして、子どもたちの成長を支えるという夢を持っていました。教育実習や教員採用試験を乗り越えられたのは、そんな夢があったからです。

「あなたの夢は、何？」とたずねると、子どもたちの多くは希望する職業を答えます。私は、職業も大切ですが「その仕事に就いて、何がしたいの？」を考えることも大切だと思っています。本当に叶えたい夢を持つことは、その人の成長する力になります。子どもたち自身が、心から叶えたいと思う夢を見つけてほしいです。私は、教師として夢を持つ子どもたちを全力で応援したいです。

《ユーモアあふれる元気な先生に》

教育・心理学科 竹林 霞 (香川県・小学校)



「子ども同士で個性を認め合える教室空間をつくりたい。そして、一人ひとりの子どもが、夢に向かってチャレンジしていける学級をつくりたい。」

そのために私自身が、自分の個性を大切にしていこうと考えています。苦手なこと好きなことなど、ありのままの姿を子どもたちに見せて全力で子どもに向き合っていきます。さらに、これまでの総合育成支援員や京都教師塾での学びや経験を活かし、さまざまな環境にいる子どもたちの言葉の背景を理解できるように努力していきます。

子どもたちが、自分らしく安心して過ごせる学級を創るために、まず自分が学ぶ姿勢を持ち続けます。

《子どもと共に前進していける先生に》

教育・心理学科 奥田 美都 (京都市・小学校)



将来に夢や目標を持つことは、大きなエネルギーにつながります。社会が激しく変化していく時代を生きていく子どもたちには、たとえ困難にぶつかっても頑張れるエネルギーが必要です。

私は、子ども一人ひとりの良さを見つけて、少しでも伸ばせるように働きかけていきます。周りから認められる経験を多く持つことによって自信につながります。自信を持って活動すれば、夢はふくらみ意欲も大きくふくらみます。子どもたちが、毎日を生き生きと過ごし、みんなで頑張れる学級をつくりたいです。私も常に目標を掲げ子どもたちと共に、一步一步前進していける先生になります。

《子どもに信頼される先生に》

教育・心理学科 文岩 慶一郎 (大阪府・小学校)



わたしは、大学でサッカー部に入部し、後半の約一年半は、部長を務めました。この経験を通して、責任を持つこと、真剣に取り組むこと、統率すること、信頼し合うこと等を身に着けることができました。どれも自分には、欠けていた力でした。これらの力は、教師には必ず必要な要素だと考え、活かしていきたいと思っています。

その中でも教師にとって最も大切な力は、信頼を築きあげることだと考えています。子どもたちと信頼関係をつくるために、子どもの課題に真剣に向き合うことです。そして、課題解決に向けて全力でぶつかっていくことが大切です。私は、部活動での経験を活かし、子どもと真剣に向き合い、信頼される先生になります。

《子どもの良さを伸ばす先生に》

教育・心理学科 辻 由貴 (滋賀県・小学校)



私は、互いの良さや個性を認め合える学級をつくりたいです。教育実習先の学級は、個性豊かな子どもが多くいました。自分らしさを存分に出し、キラキラとした笑顔で毎日を過ごしていました。それは、子どもたちがお互いに認め合っているからだと思っています。この「認め合える心」を育てるには、教師自身が一人ひとりの子どもたちの良さを知り、認めることが大切です。私も子どもたちのキラキラした笑顔がたくさん見られる学級をつくりたいと思っています。

四月から教壇に立つことに不安は感じますが、子どもの笑顔を大切に良さを伸ばす先生になります。

《子に寄り添い、自信を育める先生に》 教育・心理学科 水藤 綾音 (豊能地区・小学校)



学校ボランティアで、子どもの言葉から「できない」「ムリ」が聞こえてきました。否定的な言葉は、自己肯定感を下げ、自信を失うことにつながります。やがて、将来の夢も語れなくなるのではないかと心配になりました。

夢は未来への希望で、生きる目標になります。夢を持っている子どもたちは、勉強する意味を自分で考え、気づいていくことができると思います。私は、毎日の子どもの変化や様子に目を向けて、良いところをたくさん褒めて成功体験を増やせるように教師として支援していきたいと考えています。また、楽しいときには、一緒に笑い、喜び、悲しいときには、それを分かち合えるような素敵なお人になれるように努力します。

《子どもの長所を伸ばせる先生に》 教育・心理学科 河内 雄策 (京都市・小学校)



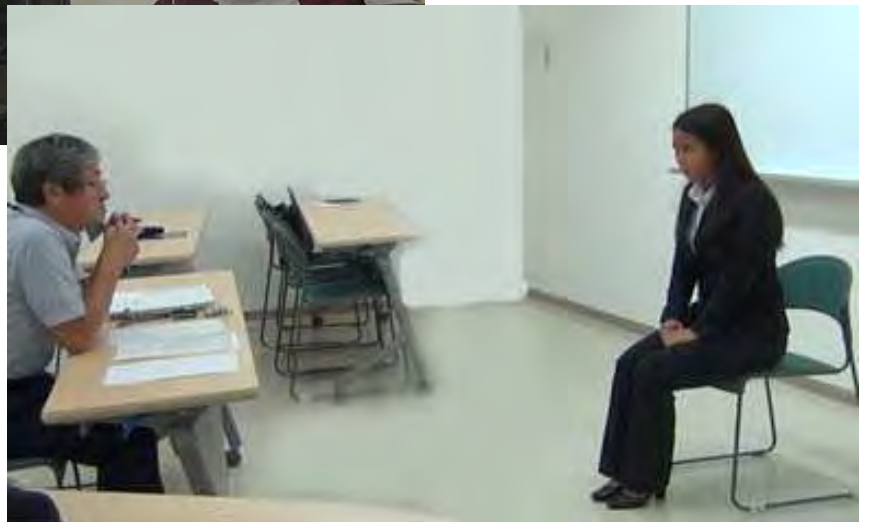
私は、大学の授業以外の大半の時間を子どもに関わろうと努力してきました。学校ボランティアだけでなく、少年野球のコーチ、家庭教師等できる限りの時間を子どもと接してきました。その経験から、子どもの「成長」について考えるようになりました。

「子どもは、短所を改善するよりも、長所を伸ばす方が大事なのではないか」と、感じ始めました。苦手なことへの克服は、気持ちが前向きになれません。しかし、得意なことへの挑戦は、意欲的な心情を高めることにつながります。

私は、子どものことを第一に考え、一人ひとりの特徴を把握することで「伸ばしたいところ」を見つけようと考えています。そして、子どもの成長を支援していきます。



教師をめざす真剣なまなざしに、みなさんの「本気度」が感じられます。



教職をめざす3年生の皆さんへ

教職支援センター アドバイザーから

今年度の最終号「大谷教師塾」の第114号が出来上がろうとしています。

この号には、今年度の各地の採用試験で力を発揮した4年生の先輩が、私は「こんな先生になります！」という力強い決意をそれぞれ書いて寄せてくれました。

ここに綴られた先輩たちの熱い決意の中に出てくる「キーワード」をつないでみるだけでも、とても素晴らしい教師像が思い浮かんできます。

先輩たちが書いてくれたこれらの「決意」の中に出てくる「キーワード」は、その場の思いつきで浮かんできた言葉ではありません。自身の夢の実現のため、これまでの大学の授業、そして介護等の体験や教育実習の経験は勿論のこと、教職支援センターでの自学やグループワーク、そして相談活動等々を通して、早くから地道に取り組んできた学校現場でのボランティア活動に積極的・主体的に取り組んで身につけてきた「力」が基盤となって、その成果からにじみ出てきた言葉だと捉えています。

加えて、同じ夢を持つ大谷大生が、「子どもたちの成長のために本当に必要な関わりとは何なのか」等々について意見を戦わせ、お互いに磨き合いながら、「夢の実現」に向けて努力を積み重ねてきた成果の総体であると思います。

手前味噌になるかも知れませんが、大谷大生が「教師塾」等や学校ボランティア等で大変お世話になっている各教育委員会や学校現場をアドバイザーがお訪ねしたとき、「子どもたちのために良いと思ったことはもっと積極的に取り組んでほしい！」という要望をいただきます。しかし、「大谷の学生は、参加が実現出来たことで終わり（ゴール）というのでは無く、そこをスタートにして、こつこつと地道に真面目に取り組み続けてくれています！」とか、「そんな姿を見ていて成長が楽しみです！」とか言っていたことが多く、喜んでいきます。

このような姿勢を大切にしながら、各教育現場で講師として頑張っている先輩もたくさんいます。こうした、将来に向けて努力し成長し続ける姿が頼もしい先輩方の良いところを3年生のみならず、同じ志を持つ大谷大生には、先輩たちの姿勢を引き継ぎ、伝統として、「子どもたちのよりよい成長のための教育」に貢献し続けてほしいと願っています。

「夢を実現する」スタートとしても、その一貫としても、教職支援センターのアドバイザーを是非とも訪ねてください。

教職支援センター 今後の予定

- 春の面接セミナー（2回講習 要申込み） [3年生対象]
 2月 8日（水） 60分 面接試験の視点、面接内容、その他
 3月 1日（水） 120分 個人面接実習（グループ別）
 志願書記入説明会（地域別、事前申し込み不要） [3年生対象]
 3月 9日（木） 京都府・京都市
 3月10日（金） 滋賀県
 3月13日（月） 大阪府・大阪市・豊能地区・堺市
 3月14日（火） その他の都道府県
 【内容】 ・志願書について
 ・志願書作成 教師像・自己PR作成



- 4・5月 各自治体教員採用試験説明会（掲示板で日時を確認） [全学年参加可]
 昨年来校自治体 京都府・京都市・大阪府・大阪市・滋賀県
 4月～ 教員採用試験直前講座（10回、要申込み） [4年生対象]
 面接（個別、集団）・集団討論・論作文

**積極的な参加を呼び掛けます。仲間と励まし合い、
刺激し合って学習を重ねましょう。**